

研究課題	自ら気付き，考え，行動する子の育成
副題	～情報端末を活用した，自然体験活動の充実と主体的な学び～
キーワード	体験活動，探究活動，ICT，モジュール，主体的な学び
学校/団体名	公立伊勢原市立緑台小学校
所在地	〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森 482 番地
ホームページ	https://www.isehara.ed.jp/midoridai-e/

1. 研究の背景

昭和53年の開校当初より，地権者や地域の方々の協力を得て，学童農園，田，学校の裏山の自然観察コース，みどりの広場，学校動物園をつくり，飼育・栽培活動，勤労・生産活動，生活・総合の探究活動を柱とした教育活動を続けてきている。

また，探究活動を進める中で，それぞれの学年・学級で屋外の活動に積極的に取り組んでいる。また，毎年，地域のお世話になった方々を招待して，児童の活動成果を報告する「きつずチャレンジ～一年間の歩み～」を開催している。

令和2年度に，GIGA スクール構想により一人1台の情報端末が整備された。しかし，これまでの本校の特色を生かしながら，具体的にどう活用するかについては，試行錯誤している最中というのが実態である。本校では，学校研究で「目指す子ども像」について協議し，「自ら気付き，考え，行動する子」の育成を目標とした。そのために，これまで積み重ねてきた特色ある教育活動を効果的に推進するツールとして，また，主体的に学びに向かうためのツールとして，情報端末を効果的に活用していきたいと考えた。

2. 研究の目的

本助成による研究では，GIGA スクール構想で整備された一人1台の情報端末を，私たちが目指す子どもの姿に近づけるためのツールとして有効に活用する方法を探る。

具体的には，(1)活動の記録や，考えの整理や，発表の場面(2)主体的に学習に向かう姿勢を身に付けるためのモジュール学習の場面の2点での情報端末の効果的な活用を探ることにした。

3. 研究の経過

本研究は，全教職員が協力し学校全体で取り組んでいる。研究の進め方は，①研究企画会，②研究推進委員会，③研究全体会という3段階で計画的に進めている。

研究企画会は，校長，研究推進部担当総括教諭，研究主任，研究副主任の4名で毎週月曜日の5校時に実施し，学校研究の方向性の確認と研究推進委員会に向けた原案作成を行っている。

研究推進委員会は，研究企画会メンバーに教頭，教務主任，各学年1名の推進委員で構成し，本校の研究の方向性や考え方，部会の進め方，研究授業指導案や実践記録の形式の検討など具体的な事柄について深く協議している。

研究全体会は，全教員が参加し，研究の方向性や考え方，研究授業後の協議，講師を招聘しての研修会などを行い，本校の研究についての共通理解をしていく場としている。

表1 令和4年度の研究経過

時期	取組内容		評価のための 記録
	教員	児童の活動	
4月	4/7 研究全体会① 4/28 研究推進委員会 ・今年度の研究の年間計画	①生活・総合(学年・学級) ②みどりっこマイプラン (モジュール学習) ③飼育・栽培活動 ④米作り活動	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
5月	5/6 研究全体会② 研究部会 5/27 研究全体会③ ・みどりっこマイプランについて	○5/6 田はじめの会	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
6月	研究推進委員会 6/20 研究全体会④ ・マイプラン児童アンケート計画	○6/1 代かき4年 田ならし4年 ○6/3 田植え4年	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
7月	7/7 研究推進委員会 7/25 研究全体会⑤ 研究部会 ・マイプラン児童アンケート結果		【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙 ・アンケート
8月	8/3 研究全体会⑥ ◆講師招聘 大村龍太郎 先生 (東京学芸大学 准教授) 8/25 研究推進委員会 8/30 研究全体会⑦ ・生活科・総合的な学習の時間の取組 ・2学期研究計画		【教】研究新聞
9月	9/9 研究推進委員会 9/29 研究授業(5年2組 総合) 9/29 研究全体会 ◆講師招聘 大村龍太郎 先生 (東京学芸大学 准教授) ・研究授業についての協議	○9/2 案山子立て 5年 ○9月～11月頃 落ち葉集め 6年	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
10月	10/13 研究推進委員会 10/24 研究授業(特支級 生活総合) 10/24 研究全体会	○10/4 稲刈り5年 稲運び1,2年 ●10/14 脱穀3年	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録

	・研究授業についての協議				初摺り 3年	・振り返り用紙
1 1月	11/17 研究授業(1年1組 生活) 11/17 研究全体会 ・研究授業についての協議				○11/18 餅つき 6年	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
1 2月	12/6 研究推進委員会 12/22 研究全体会 ・R5に向けて ・研究紀要について					【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
1 月	1/19 研究推進委員会 1/30 研究全体会 ・実践記録について					【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
2 月	2/9 研究推進委員会 2/15 研究授業(4年2組総合) 2/15 研究全体会 ◆講師招聘 大村龍太郎 先生 (東京学芸大学 准教授) ・研究授業についての協議 2/21 研修会 ◆講師招聘 佐藤 幸江 先生 (放送大学 客員教授)				○2/6~10 きっずチャレンジ週間 全学年 ○2/24 腐葉土まき 5年	【教】研究新聞 【児】写真 ・観察記録 ・振り返り用紙
3 月						

4. 代表的な実践

(1)生活科・総合的な学習の時間「きっずチャレンジ」

本校では、生活科や総合的な学習の時間を使って、学校の身近な「ざい(材, 財)」と関わりを繰り返す中で、子どもたちの「なぜ」、「もっと知りたい」といった感想を丁寧に取り上げ、「とことん調べたい」、「挑戦したい」という意欲を高め、学年や学級ごとにテーマを決めて協働的な探究学習に取り組んでいる。

2年生は、学区内の探検を通して子どもたちが発見したことを整理し、自分たちにできることはないか考え活動してきた。

4年1組は、2年生から学級で飼育しているうさぎのためにできることはないかを自分たちなりに考え、年間を通して取り組んできた。うさぎが好む野菜を畑で育てたり、エサ代を稼ぐためのお店を企画したりとグループに分かれて活動してきた。

5年2組は、校庭の危険な場所を調べ、ブランコの周囲に安全な柵を設置できないか考え活動したり、土手を走り下りる人が多いことから、走り下りることのない安全な土手にするにはどう

すればよいか考えて活動したりしてきた。

特別支援学級（知的級・情緒級・肢体級）は、毎年、学校の畑で野菜を栽培している。以前は、収穫した野菜を家庭科室で調理して食べていたが、コロナ禍にあつて以前のように調理実習は難しい状況となっている。年度当初に、今年度の栽培活動について話し合いをしたところ、育てた野菜を持ち帰り家で調理して食べたい子と、収穫した野菜を給食の材料にして全校のみんなで食べたいと考える子と、収穫した野菜を販売して学校で育てている動物のために使う資金にしたいと考える子とに意見が分かれた。そのため、3つのチームに分かれ、それぞれのチームごとに目標を立てて、季節ごとに野菜を育て、収穫した野菜をそれぞれのねがいを実現するために取り組んできた。

このように各学年・学級ごとに身近な「ざい」との関わりの中で、自分たちで気になったことをきっかけにして、話し合いを重ね探究活動に取り組んできた一年間の歩みを全校に報告する場として、「きっずチャレンジ～一年間の歩み～」を毎年2月に実施している。

以前は、全校が体育館に集合し、お世話になった地域の方々を招待して、学級ごとにステージ上で発表したり、教室でポスターセッション形式の発表をしたりしてきた。しかしコロナ禍にあつて、感染症対策として密の状態を避ける必要が出てきた。そこで発表形式を掲示物と動画での発表に改め、動画の視聴期間を一週間にした。そして「きっずチャレンジ週間」と名付け、子どもたちが他学年・他学級の人に自分たちの一年間の取組を伝えたり、他学年・他学級の取組を見たりすることができるようにした。



写真1 きっずチャレンジの動画視聴

(2) モジュール学習「みどりっこマイプラン」

今年度、時程を新しくし、2校時と3校時の間に15分間のモジュール学習を2コマ連続で実施するようにした。

モジュールの時間では、①自分で考え、計画を立て、自主的に取り組む機会を学校全体でつくり、児童の自主・自律の力を培うこと、②この時間を利用して、個に応じた学習を支援すること、③飼育活動や栽培活動（畑や花の世話）に時間的なゆとりをもって取り組み、温かい心を育むことなどを主なねらいとして学校全体で取り組んでいる。

15分間のモジュールが、一週間に2コマ×5日間で10コマ分となる。この10の時間割りを子どもたちに委ね、「みどりっこマイプラン」として自分で時間割りを決め、自分で決めたことを取り組むようにした。

10コマの内訳は、基本的に飼育活動2コマ、算数3コマ、国語3コマ、自由選択1コマ、自習の予定表作成と今週の振り返り1コマとなっている。



写真2 2年生の様子

学年ごとに、算数や国語のプリント入れた棚を準備し、子どもが自分でプリントを選んで取り

組んだり、タブレットを活用してドリル学習をしたり、タイピング学習をしたりできるようにしている。子どもたちは、自分自身で今週の課題をどのコマでやるか選択し、取り組んでいる。担任は、見守りと個別指導が必要な子への支援をしている。

また、本校では2年生以上の全学級で動物飼育に取り組んでいる。そのため、週に1回は飼育当番としてモジュール2コマ30分間の飼育活動時間を確保している。以前は15分の中休みの時間に飼育活動をしていたためエサやり、水やり、掃除であったという間に時間になって、じっくりと動物とふれあう時間がなかったが、現在ではゆったりした時間があるため、子どもたちが動物とのふれあいを楽しめるようになった。

飼育当番の曜日がそれぞれ違うため、飼育活動をする子、算数プリントをする子、タブレットを使って学習する子など、同じ時間に具体的な活動は一人ひとりばらばらである。しかし自分で立てた計画に従って静かに取り組む子が増えている。

(3) 飼育・栽培活動

本校の飼育活動は、「各学年それぞれが飼育している生き物の世話を通して、①生命尊重、②協力・責任、③人とのかかわり、などについて学び、人間として必要な資質を育む」ことをねらいとして、2年生以上の全学年・学級で取り組んでいる。

飼育活動は、平日だけではなく、土日や長期休業期間も、当番表を作成し、学校へ来て、自分たちで世話をしている。

また、栽培活動は、各学年用の畑があり、理科の学習用の植物だけでなく、生活科・総合的な学習の時間に自分たちで栽培したい野菜を話し合いにより決めて、季節に応じた野菜等を栽培している。また、収穫した野菜の活用についても話し合いで決めている。

表2 令和4年度の飼育動物

2年	チャボ4羽「みつば」「ベガ」 「マリン」「マロン」
3年	うさぎ2羽「デール」「チャル」
4年	うさぎ1羽「パンダ」 チャボ2羽「アイス」「ルル」
5年	鳥骨鶏1羽「スズ」 チャボ1羽「アルタイル」
6年	うさぎ2羽「ラスク」「だいふく」

(4) 米作り活動

本校では、全学年で作業を分担し、年間を通して米作り活動に取り組んでいる。子どもだけでは難しいため、地域の米作り農家の方に米作り名人として協力をお願いし、また保護者を中心に米作りボランティアを募り、子どもたちの作業のサポートをお願いしている。しかし、活動の中心はあくまで子どもたちであるため、周りの大人が手を出し過ぎないようにしている。

担当学年が決まっているため、次年度自分たちがやる仕事については、次年度に備えて見学やインタビューをしている、さらに学年によっては、情報端末を使ってその様子を写真や動画で記録を残していた。

表3 米作り活動作業分担

1年	稲運び
2年	稲運び
3年	脱穀、籾摺り、米はかり
4年	代かき、田ならし、田植え
5年	案山子立て、稲刈り、 腐葉土まき
6年	餅つき、落ち葉集め

5. 研究の成果

一人1台の情報端末を、私たちが目指す子どもの姿に近づけるためのツールとして有効に活用する方法を探りながら研究に取り組んできた。情報検索を主とした情報端末の活用ではなく、子どもたちの主体的な取組を促す活動を積み重ねてきた。「きつずチャレンジ」での探究活動、「みどりっこマイプラン」での主体的な取組、「飼育栽培活動」「米作り活動」での体験、これらの具体的な体験活動や探究活動の中で、自分たちの取組を記録したり整理したりしながら、「きつずチャレンジ週間」での報告に情報端末を活用した。

従来の絵による観察記録は、写真になった。ペンで模造紙に手書きしてのプレゼンテーションは、活字として模造紙サイズまで印刷できるようになった。発表会は、動画での発表も可能になり、動画の中の自分を見ることで、客観的に自分の発表について自身で評価し、改善できるようになってきた。

6. 今後の課題・展望

一人1台の情報端末の活用は、まだまだ始まったばかりである。簡単に写真を記録したり、情報端末を使って意見交流をしたりできるようになり便利になってきた。しかし、一方で、情報端末を使った児童間のトラブルも起きるようになってきた。積極的な活用を促す一方で、モラル指導も欠かせない。これまでの情報モラル指導は、高学年中心であったが、低学年から計画的な指導も必要となる。

慣れてくると便利のため、すべてが情報端末を活用した発表になってくると表現方法に偏りが出て、表面的には個性が見えにくくなっていく心配がある。また、活動の進め方によっては体験や活動を伴う探究活動でなく、情報検索中心の活用だと、調べただけで知った気になる子どもが増えてしまう心配がある。時にはそのような学習活動も必要だと思うが、そのみに偏らないよう、今後も、子どもたちの体験活動を大切にしつつ、上手に情報端末を活用していきたい。

また、「みどりっこマイプラン」による自分で学習計画を立てることが子どもたちに定着したら、次の段階として、家庭学習についても同様に自分で計画を立てる習慣を身に付けられるようにしていきたい。それが自分の生き方を自分で決めていく力の基盤になると期待している。

7. おわりに

今年度、研究助成を受け、環境整備を進めることができた。そのため、GIGA スクール構想で整備された一人1台の情報端末を、全教職員が目指す子どもの姿に近づけるためのツールとして有効に活用する工夫をするようになってきた。

本校の研究を支えてくださったパナソニック教育財団及び研究を導いてくださった講師の皆様は心より感謝します。

8. 参考文献

- ・文部科学省(2022)『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』アイフィス